

第 64 回 東葛しぜん研修会

クモから環境を知る

大貫 遵子（柏市）

日 時：2012 年 9 月 27 日（木）10～12 時 30 分 天気：曇り

場 所：こんぶくろ池（柏市）

講 師：浅間 茂氏（我孫子市）、担当指導員：大貫、三嶋

参加者：指導員 20 名、協議会 3 名、こんぶくろ池 6 名、一般 1 名、計 30 名

研修会当日は、台風 18 号の影響で雨降りの予報でしたが、強風だけで開催でき、晴れでした。NPO 法人こんぶくろ池自然の森のフィールドを拝借しての観察会で、NPO の古橋事務局長作成のパネルの前で、浅間先生のレクチャー：「生き物から環境を知る」テーマで開始されました。クモは世界でおよそ 4 万種、日本では 1,700 種、千葉県では 370 種が知られており、肉食のクモは、生態系では第二次消費者に位置しているとのこと。クモの生息条件は餌となる昆虫の種類と量だけでなく、網を張る植物の状況、地形、水辺環境、温度、植生などが関係しており、クモの種類が多いことは、総合的な環境の多様性を示しているとのことのお話しでした。

観察会は、皆さんで森のクモを観察してから、班に分かれて採集することにしていましたが、採取観察しながら説明同定を受ける結果になりました。草地、弁天池流路の湿地と次々にクモを発見していき、先生からは葉の裏側や下草の間、樹木名札の裏などにも営巣していることを示唆され、面白いように小さなクモを探し出せ、先生の適切な説明でますます楽しく観察・採集することが出来ました。

10 年前に協議会の観察会に参加された和仁さんは、こんぶくろ池周辺の整備が進んでいるのには、驚かれていました。

2 年前の先生の調査と比較して同数の 37 種が発見でき、自然公園としての存在が確認されたといえるのでしょうか。先生の明確な説明、遠方から来てくださった方々、これを機会に NPO 会員になられた方々、資料のカンパを頂き、ありがとうございました。こんぶくろ池ファンが増えることを願って止みません。



ふりかえり：採集クモリストの確認

＜採集したクモ：37 種＞ 環境評価 E：林・草地・水辺があり、よい自然環境を保っている。
ジョロウグモ、ゴミグモ、ナガコガネグモ、ヨツデゴミグモ、コガタコガネグモ、サガオニグモ、オオシロガネグモ、アシナガグモ、コシロガネグモ、オオトリノフンダマシ、ウズグモ、カタハリウズグモ、キララシロカネグモ、オオヒメグモ、ヒメグモ、コクサグモ、ハナグモ、ウヅキコモリグモ、イオウイロハシリグモ、アシナガコマチグモ、マミジロハエトリ、チャイロアサヒハエトリ、オオハエトリ、デーニツツハエトリ、イモコモリグモ、ムナボシヒメグモ、シャコグモ、ヤミイロカニグモ sp、マネキグモ、オナガグモ、オウギグモ、フタオイソウロウグモ、ハツリグモ、ヤマトカナエグモ、ヤリグモ、ユウレイグモ、チリイソウロウグモ